

フラッグフットボールの普及による、アメリカンフットボールのファン拡大、及びプレイヤー増加の因果関係の検証

The fan expansion of the American football by the spread of flag football and inspection of the causation of the player increase

1K05A080

小池 智昭

指導教員

主査 中村好男先生

副査 吉永武史先生

序章 研究に至った背景と本研究の目的

近年、子どものスポーツ離れ、体力低下が叫ばれる中、他のスポーツとは違った形で子どもへの普及が広がりつつあるスポーツがある。それがフラッグフットボールである。当初、フラッグフットボールは、アメリカンフットボールから身体的な接触を一切なくし、性別、年齢に関係なく、誰でも楽しめる「簡略型アメリカンフットボール」として紹介された。しかし、現在では、教育的価値の高いニュースポーツとして教育界からも注目を浴び、フラッグフットボール単体として独自の展開を見せている。その象徴として、新しい小学生学習指導要領解説への掲載という点からも価値が認められた。本論文は、フラッグフットボールが小学生に普及することによって、アメリカンフットボールのファン及び、プレイヤーの拡大に繋がるという今までの常識を、小学生の意識レベルからその因果関係を明らかにし、その主張の妥当性を証明することを目的とした。

第1章 フラッグフットボールを取り巻く現状

フラッグフットボールの普及に向けて、これまで2つの競技団体(全日本フラッグフットボール連盟、全日本フラッグフットボール協会)が大きな役割を担ってきた。そして、フラッグフットボールの更なる発展のため、2008年度に組織が統合され新組織(日本フラッグフットボール協会)が誕生した。以上を踏まえ、日本でのフラッグフットボールの普及における現在までの経緯と、世界での普及状況を纏めた。特に、日本においては学校での普及の

観点からフラッグフットボールの体験生徒数の推移などを纏めた。また、世界での普及状況に関しては、フラッグフットボール先進国であるアメリカの状況に加え、各国の取り組み形態や参加校数、参加者数などを比較した。

第2章 方法—小学生に対する質問紙調査

本論文の調査方法は、全日本フラッグフットボール連盟関東ディビジョンに所属する小学校1～6年生で、フラッグフットボールを定期的に週1回以上プレーしている子どもを対象とした質問紙調査であった。

質問紙に関しては、対象が小学校1～6年生に及ぶことを考慮し、短時間で簡潔に回答できる質問内容とした。最終的に、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県で活動する6チーム計130名に回答を得た。本章では、その方法を具体的に解説した。

第3章 結果と考察

15に及ぶ質問項目の1つ1つの結果について考察を加える。その際、男子全体、女子全体、高学年男子、高学年女子、低学年男子、低学年女子など様々な群に分類して比較することで考察を深めた。

結果的に、冒頭の主張を裏付ける調査結果として8割の小学生が、今後アメリカンフットボールの試合を生で見たいと考えていることが分かった。また、男子の約50%、女子の25%が、高校、大学でアメリカンフットボールをプレーしたいと考えてい

ることが明らかとなった。このことから、フラッグフットボールの普及がアメリカンフットボールのファン拡大、及びプレイヤー増加に結びつく可能性が大いにあることが示され、両者の因果関係が確認された。

終章 今後の課題と提言

本研究の結果を踏まえた上で、現在のフラッグフットボールの盛り上がりをアメリカンフットボールのファン、及びプレイヤーの拡大により反映させる

ため、フラッグフットボール界に対して筆者から2つのことを提言する。まず1点目として、将来日本人のNFLプレイヤーが多数誕生するような選手育成システムの整備である。その際、Jリーグの育成システムをモデルとした。2点目としては、今後増加が見込まれる女子プレイヤーの環境整備である。女子プレイヤーがプレーを継続できる環境を整えることが、アメリカンフットボールにおける女性ファン拡大の必須条件であると考ええる。